

## 第2回 苫小牧市都市計画マスタープラン改定検討委員会

### 議事録要旨

【日 時】 平成29年5月31日（水）10:00～11:30

【場 所】 苫小牧市役所 9階 第2委員会室

#### 1 開会

#### 2 挨拶

- ・ 福原総合政策部長挨拶

#### 3 議事

##### (1) 市民意向調査結果について

【事務局から説明（資料2）】

##### 【丹羽委員】

- ・ 細長いまちの中で、生活の拠点づくりをすることは非常に有効だと考える。
- ・ 拠点の形成は、人が集まる環境をつくるのが先だと説明があったが、柳町のように大型商業施設ができることで人が集まるケースもあると思う。

##### 【事務局】

- ・ 柳町周辺の大型商業施設は、中心市街地の土地の大きさを考えると物理的に立地することがほぼ不可能である。
- ・ 中心市街地に人がいないということが根本的な原因である。人の流れを生み出す施策によって人が集まりだせば、大型商業施設は無理かもしれないが、小さな個店の立地を誘導することができ、その個店がまた人を呼ぶといった好循環を作り上げたい。

##### 【丹羽委員】

- ・ 人を呼び込む施策として、前回提案のあった大学のサテライトなど、学生が集まる取組みは大賛成だ。
- ・ 「買い物するところがない」という声をよく耳にする。買い物する店や飲食店など、生活環境を向上させる施策も並行して行わないと上手くいかないと思う。
- ・ 苫小牧は車社会であるから、駐車場の有無が重要になる。中心市街地は駐車場が有料なので、時間を気にしなくても、気軽に停めることができる駐車場が必要だと思う。

##### 【田村委員長】

- ・ 人が先か商業が先か、日本中でその議論が盛んにされているが、いまだ結論が出されていない。
- ・ 行政側の関与のしやすさを考えると、商業よりも、文化・芸術や大学のサテライトなどの方が誘導できる可能性が高いというふうに関こえた。

### 【柳谷委員】

- ・ 中心市街地については、世代を超えた交流的な施設に商業施設をプラスし、一定のエリアに集積させることは良いと思うが、その中で駐車場の問題がネックになる。
- ・ 公共交通については、赤字でもどの程度維持するのか、利用者負担も含めて考えていくべきである。
- ・ 今後のさらなる高齢化を踏まえると、医療の充実度と併せて地域包括支援センターのような施設の重要度が増してくると思う。施設については、市による直営、民間による代行など運営方法についても考えていく必要がある。

### 【宮本委員】

- ・ アンケート調査は、不満を言う場、わがままの助長に繋がりがねないので、取扱いに注意が必要である。商業施設や学校、バス停などから近い人は満足と言うが、遠い人は不満だと思う。全ての人を満足させるなんてことはありえない。今後のまちづくりを真剣に考えている人たちのプロジェクトチームなどで検討していったほうが実現性は高いと思う。
- ・ 施設をつくることはお金さえあれば可能だが、ただつくればいいという訳ではない。過去からの負の遺産の後始末をこれからどうしていくのかという問題に直面しているので、二度とそのようなことがないようなコンパクトなまちにすべき。
- ・ 苫小牧で満足できないものは、お金をかければ札幌や東京、場合によっては海外で得ることができる。なんでも充実させるのではなく、苫小牧らしいものを充実させれば良い。

### 【内海委員】

- ・ 人口減少に対抗するためには、「住み続けてもらう」「転入者を増やす」の2つの取組みが必要であり、そのための一番大きなポイントは「雇用」だと思う。
- ・ 苫小牧市には既に大きな企業がいくつかあるが、新たに「第3の産業」として附帯効果の高い産業である「観光」を真剣に考える必要がある。苫小牧における観光資源としては、農業でも漁業でもいいと思う。
- ・ 高齢化社会が間違いなく進むので、生活拠点で今後重要となるのは医療だと思う。大型の総合医療は簡単にできるものではないので、町医者が集まっている一角に、さらに誘致・誘導することによって医療充実度・満足度を上昇させられると思う。

### 【下夕村委員】

- ・ 中心市街地に対して不満だが、どのように活性化させていくべきかわからない市民が多いと思う。今、色々なところで様々な方策をとっているが、その認知も十分ではないのだと思う。
- ・ ここ20年くらいのまちの動向を見てきた市民の多くは、明野・柳町の商業施設群周辺が生活の拠点になるのではないかと感じていると思う。前回、生活拠点の配置案を示されたが、市民と行政側でニュアンスにギャップがある場合、行政側の意向ばかり発信してもなかなか伝わらない。このギャップをどう埋めるのか考える必要がある。

### 【宮本委員】

- ・ どのまちも人口を増やしたいと考えた場合、他都市から人を引っ張ってこなくてはならないので、人を奪い合う時代に入ってしまった。人は生活のしやすい、便利などところに集まってくる。そんな時代を生き抜くためには、苫小牧の特徴をどのように出していくかを考

えていく必要がある。

- ・ 観光においては、インバウンドを更に増やしていく場合、植苗・美沢のリゾート開発やIRも必要不可欠である。観光に関しては、今までは旧所名跡がなければ観光地ではなかったという感覚だったかもしれないが、もうそういう時代ではない。IRは依存症の問題ばかりクローズアップされているが、非常に有効な手だてだと思う。
- ・ 苫小牧は、交通の要衝としてのポテンシャルを最大限に生かして、単なるものづくりと物流のまちから一皮むいて観光のまちに変わる可能性を大きく秘めている。

#### 【柳谷委員】

- ・ 雇用の拡大と並行して教育環境や医療・福祉の充実が重要である。子供の教育や家族の医療に不安がないことが、移住又は定着につながっていくと考える。

## (2) 分野別方針について

### 【事務局から説明（資料3）】

#### 【丹羽委員】

- ・ 市内には自転車が走れる歩道が少ない。鉄道の両側に自転車専用道路をつくれば、自動車と分離することで安全性も高く、円滑な東西の移動ができると思う。
- ・ 拠点周辺でも、デマンドバスを検討したら良いと思う。特に西部は高齢化率が高くなってきているので、高齢者に外出を促すことができるのではないかと。植苗のデマンドバスは玄関まで迎えに来るので、非常に喜ばれている。

#### 【柳谷委員】

- ・ 道路網の充実については、中央ICに伴う交通量増を考える必要がある。現在でも、国道36号の浜町周辺や三光町から新開町などは交通量が非常に多く、朝夕は混雑している。どういう方法で改善していくかということと併せて拡幅整備が必要と考える。

#### 【内海委員】

- ・ 渋滞が起こっているところは、バス路線と重なっている可能性が高いと思う。渋滞によりバスの定時性が損なわれれば、利用客の不満につながり、利用度も下がることになる。
- ・ 路線バスとは別に、高齢者のような交通弱者を救うための地域コミュニティバスのようなものを、乗客数や便数は少なくなったとしても幹線ではない枝道に走らせるのも一案かと思う。

#### 【宮本委員】

- ・ 鉄道の高架や道路の拡幅などお金をかければできるかもしれないが、JRの経営状況や国の借金状況を踏まえると、そういう方法をとることは難しい。
- ・ 職場が東側に多いのであれば、西側にはあまり住まないようにしてもらえないと思う。土地代は少し高くなることを理解してもらいながら、通勤・通学に有利な東側に住んでもらうよう誘導し、西側は土地代は安いかもしれないが、通勤・通学は不便である覚悟を持っていただく、というのも一つの方法かと思う。

### 【下々村委員】

- ・ 都市骨格軸と生活軸を明確に示すことは良いと思うが、現状では、国道 36 号が都市骨格軸をイメージして作られている。示された案では、中央 I C 建設もあって、都市骨格軸の一部（中央部～東部）を道道にシフトしている。本当に変えるのであれば、色々なことを含めて検討していかなければならない。
- ・ 勇払方面に延びている南北連絡軸を 2 本（臨海東通・勇払沼ノ端通）入れることの意味を考えなければ、色々な意味で難しいと思う。

### 【事務局】

- ・ 人口の集積があまりない地区では、コミュニティ方式のバスの方が効率が良いため、現在も植苗や樽前において運行している。今後、人口が減少し、人口密度が薄まってきた地区においても、コミュニティバスを走らせ生活の拠点に人を導くことを考えていく必要がある。
- ・ 美沢錦岡通は、中心部の渋滞の緩和に最も効果的な道路である。事業の時期は見込めないが、この道路を位置付けたなかで道路網を考えていく必要がある。
- ・ 公共交通の定時性の確保は重要であるため、交差点の改良やバス専用または優先レーンも検討する必要がある。

### 【田村委員長】

- ・ 次回以降の地域別構想では、地域の声が強くなってくるが、地元・地区毎の小さな意見を吸い上げるとともに、将来都市像・まちづくりの目標を踏まえた市全体に対する意見を集めることがポイントになる。
- ・ 現時点に関しては、市民の意向を吸収できている。そのなかで、各委員から強調すべき点について意見が出された。特に「観光」の部分については印象的であった。
- ・ 今回議題とした「分野別方針」については、今回示された案で了解したということとし、各委員から出された意見を踏まえ、次回以降、地域への議論に進むことにする。

## 4 その他

【事務局から次回委員会について連絡】

## 5 閉会